

「留学生との思い出」

元非常勤講師 小暮朋子

私は1989年4月から30年間、お世話になった日中学院日本語科を今年の3月に退職いたしました。私が日本語教師を始めたきっかけは福建省生まれでマレーシア国籍の夫と結婚したからです。私の夫も50年前にマレーシアから日本に留学してきた留学生でしたので、夫と結婚してからはいつも身近にマレーシアや中国からの留学生がいました。そんな環境で自然に留学生に日本語を教えるようになり、日本語教師養成講座にも通いました。そして、1986年、マレーシアのクランという町に家族で移住し、夫は母校の中華高校の校長になりました。そのころ、マレーシア政府はマレー人優先の政策をとっていて、人口の30%を占める華人がマレーシアの大学に入るの、大変難しい状況でした。そこで、華人学生が日本の大学に留学できるように夫と二人で、中華高校に日本留学のための日本語科を作り、日本から来てもらった日本語の先生と私が一緒に日本語を教えました。集まった学生たちは熱心に勉強して、1年後には、全員が日本の大学に留学して行きました。

しかし、その当時のマレーシアは、外国人の就労がとても厳しく制限されていて、日本人の私は滞在ビザや労働許可証をもらうために、どれだけ入国管理局通いを続けたかしれません。労働許可証の延長ができず、日本語科をこれ以上続けるのが難しく断腸の思いで、閉じました。私はマレーシア在住中、次のビザの更新ができるかどうか、いつも不安な気持ちで過ごしていました。この時の海外で外国人として暮らした経験が、日本に帰ってきてから留学生と接するうえで役に立ったと思っています。

1989年にマレーシアから帰ってきて、4月から、日中学院日本語科の4期生の担任になりました。初めて中国からの留学生を受け持って、毎日が新鮮な驚きの連続でした。4期生の時は入学の年齢制限が35歳だったので、高校を出た後、大学で勉強したくても、文革で進学できなかった35歳に近い優秀な学生さんがたくさんいて、日本の大学や大学院を目指して頑張っていました。その頃の中国は今とは違って、日本との経済的な差が大きく、留学生は多額の借金をして、日本に留学に来ていて、経済的に本当に厳しい状況でした。授業以外の時間はアルバイトを2つも3つも掛け持ちして大学に払うための授業料や生活費を工面しなければならず、しかし、そんな苦しい状況の中でも皆、必死に勉強していました。あのころの学生さんの努力、忍耐力には本当に頭が下がります。

学好中国话，为日中友好起桥梁作用！

日中学院報

2019年 5

毎月1回1日発行 第530号

編集発行人・片寄浩紀

定価1部100円/1年1000円(送共)

郵便振替 東京 00100-38184

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3

TEL 03-3814-3591 FAX 03-3814-3590

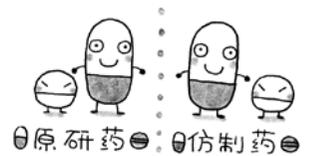
URL <https://www.rizhong.org/>

E-mail info@rizhong.org



4月5日(金) 本科・日本語科合同入学式

A 先生の新語コーナー



fǎngzhìyào “仿制药”

ジェネリック医薬品(後発医薬品)。中国政府は先ごろ「ジェネリック医薬品供給保障・使用政策の実施加速に関するプラン」を公布した。プランによれば、中国は今年6月末までにジェネリックを推奨する第一次医薬品目録を発表する予定。プランはまた①先発医薬品の品質、治療効果と一致させる原則に従って後発医薬品の審査・評価認可を行う②ジェネリックの代替使用を促進し、一般名(成分名)での医薬品調達目録の作成を全面的に実施すると述べている。

(A)

私にとって忘れられないことがこの年の6月にありました。1989年6月4日の天安門事件です。翌日、学院へ行くと、日本語科の学生は悲痛の叫びをあげていました。落ち着いて授業を受けられる状況ではなく、学生さんから、授業ではなく、学生同士の話し合いの場にしたいという申し出がありました。事件後、一週間は日本のテレビのニュースで流された映像を見て、クラスで意見を出し合っていました。中国大使館への抗議のデモに参加した学生もいました。

そのころ、テレビ局が学院へ取材に来て、留学生に天安門事件についてどう思うかとインタビューをしていました。この時、テレビカメラに向かって、弾圧した政府への怒りを口にした学生は、その後何年も国に帰れませんでした。

あれから、30年が経ちました。この間、日中

学院でたくさんの中国人留学生と出会うことができました。この出会いは私の宝物です。中国は目覚ましい経済発展を遂げ、学生さんを取り巻く状況も大きく変わってきました。日本語科の留学生たちはその後、大学、大学院へ進学し日本で社会人として働いている人、才能を生かして、日本で芸能活動している人、中国へ帰国し日本との関連の仕事をしている人、カナダへ移住した人など、様々な人生を送っていますが、日中学院の留学生に共通しているのは、皆が日中友好の架け橋になってくれていることだと思います。それは、本当に素晴らしいことだと思います。日中学院は中国人と日本人が相互に理解し合い、信頼関係を築く大きな役割を担っていると思います。学友の皆様、30年間お世話になり、本当にありがとうございました。日中学院の益々の発展をお祈りしております。

異文化は面白い！ ～可越氏の講演会から～

別科担当 胡興智

2019年2月16日、日中学院の大教室は大変な熱気でした。

日中コミュニケーション株式会社取締役、可越さんの講演が行われ、その日は熱心な聴衆の皆さんで大いに賑わいました。

演題は「異文化の誤解を解き、未来志向へ」です。

その冒頭『『空気を読む』ことができるのは日本人だけ？異文化理解を深めるためには、その差異を知ることから第一歩を踏み出そう』という提起がなされました。「中国人でさえ毎日勉強しないと日々変化する中国に追いつけない時代に、我々はどうすればよいのでしょうか。」可越さんは「異文化の理解をすることこそ、未来へ切り開く鍵となります。一緒に中国人の“空気”を知り未来志向を考えましょう」と説きます。

示唆に富んだご講演は、大きく変化する情勢の中、不透明な道を迷いながら歩む私たちに多くの気づきと、前に向かう勇気を与えてくださり、いつもより活発な質疑応答が続いて、終了時間が来ても、質問が途切れることはありませんでした。

可越さんが講演の中で何回もおっしゃった「異文化は面白い」には、私も大変感銘を受けました。その面白さを味わう前に、異文化であること、あるいは、異文化が存在しているという事実をまず認める必要があるように思えます。

これまで何度も「文化が違うと言われると、何も言えなくなる。」と言われて、しかも、異文化教育に携わっている方からも言われたことがあって、同質文化の環境で育った方々には、異文化の存在すら知って頂く難しさをしみじみ

思いました。

それだからこそ、他民族の国の中国、いわば異文化環境の中で育ち、また、日本に留学して、異文化コミュニケーションを研究しながら、仕事をしていらっしゃる越さんのような方に来ていただき、その異文化が存在している、「異」は「忌」ではなく、「違い」は「間違い」ではないことを一緒に確認することから始まると思いました。異文化の存在を観念的ではなく心で理解し、異文化の喜怒哀楽を心で共有するまでの道程が長いのですが、「異文化もいい文化だと信じつつ助け合いつつ前へ進もう」という気持ちを大切にしながら、前へ行く足を止めなければ、きっと相互理解の道が開けると思いません。

異文化に対して「入郷随俗」ということも大切ですが、「入郷不随俗」の勇氣も異文化教育に携わっている者にとって、必要ではないかと思つづく思いました。率直に中国人、中国人女性の一面を見せてくださった可越さんに脱帽！



図書室 だより

スマホで視聴してみよう《朗读者》

★《朗读者—青少版—》主编 董卿
人民文学出版社



中国CCTVにて2017年と2018年に放送され、好評を博した番組《朗读者》。毎回『青春』『家』『勇氣』『告別（別れ）』『那一天（あの日）』などのテーマに沿って、著名人をゲストに迎え、ゲストがそのテーマにまつわる思い出話をインタビュー形式で語り、最後はステージに移動し、思い入れの深い文学作品をゲスト自身が朗読します。番組の制作と司会進行はCCTVの花形アナウンサー董卿さん。ゲストは著名な俳優、作家、歌手、学者など豪華な顔ぶれが揃います。

本書はその番組で朗読された作品（文章）を収録しているのですが、この本の特色は、AR（画像認識）技術を使用し、本書に掲載された番組ゲストの写真を、専用アプリを立ち上げたスマホやタブレットをかざすだけで、番組でそのゲストが実際に朗読をしている場面が自動的に再生され、そのまま視聴することができるそうです。実際の朗読を視聴し

ながら、本書で文章を追うことができます。もちろんこうしたアプリを利用しなくても、CCTVのウェブサイトや番組の公式サイトで番組を視聴することもできますので、本書を片手に朗読に親しんで頂ければと思います。

★今月の新着図書（著者名・出版者略）

- 『中國紀行 vol.13 ハザマの世界で育まれてきた物語』
- 『中國紀行 vol.14 三国志の地へ』
- 『顔真卿伝—時事はただ天のみぞ知る—』
- 『時事中国語の教科書 2019年度版』
- 『シャオミのすべて』
- 『アント・フィナンシャルの成功法則』
- 『HSK成語用法 解釈・例文・練習』
- 『すらすらさくさく中国語中級ドリル1000』

ほか多数

日中学院図書室（2階奥）

開室時間：12：00～18：45（月～金）

12：00～18：00（土）

※受講生であれば図書室を利用することができます。利用希望の方は図書室でお手続きください。

5 月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
			1 ●休日	2 ●休日	3 ●休日	4 ●休日
5	6 ●休日	7 ●本科発音補助	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21 ●本科・日本語科 合宿（～22）	22	23 ●本科 短期研修 説明会	24	25
26	27	28	29 ●本科（研究科、 2年）、日本語 科健康診断	30	31	
●6月の日中学院 ・5日…別科 日本語科昼食会（～7） ・7日…本科 進路指導懇談会 ・14日…本科 2年定期試験（～20）		・14日…別科公開講座 入門（18：45～） ・16日…1日集中講座／留学試験 ・20日…短期研修結団式 ・22日…別科公開講座 入門・基礎（13：00～）		・24日…本科 短期研修出発（～29） 別科273期授業最終日 ・25日…別科学期間休（～29）		

○日曜一日集中講座 6月16日（日）

入門講座や、発音復習クラスなど、開講の予定です。詳しくはチラシやHPをご覧ください。

お申込みは、お電話もしくはHPからもお申込み頂けます。

○別科無料公開講座

これから中国語を学習される方など、日中学院での学習が初めての方向けの公開講座を開講します。HPやお電話にてお申込み下さい。

- 6/14（金）18：45～20：45（入門）
- 6/22（土）13：00～15：00（入門・基礎）
- 9/14（土）13：00～15：00（入門・基礎）
- 9/26（木）18：45～20：45（入門）
- 10/4（金）18：45～20：45（入門）

○本科生のための無料公開講座

全日制で中国語の学習をご検討の方向けの公開講座です。

8月31日（土）9：30～13：00

学院長の思い出話 9

家内の中国観を変えたもの

ある年の元旦に駐日新聞記者J夫妻を自宅に招いたところ、J夫人が家内の食器洗いを手伝ってくれました。そして「今度は私たちの宿舎に来て下さい。中国の家庭料理を味わって欲しい」と返礼の招待を受けました。以前には招待されても、そのままになってしまうことがほとんどでした。なかなか時間が取れず、連絡が遅くなっていたら、J氏から三度も催促を受けました。さて3月になってやっと宿舎を訪問しました。J夫人は自分の故郷の西安料理を作るためにわざわざ前日に横浜中華街に食材を買いに行ってきたのです。J夫人の「おもてなし」を受けた後、家内の中国人観は確実に変わりました。それまではどちらかというところ「中国人は○○だ」というマスコミの言葉の影響を受けていたのですが、「実際は違う」ということを実感したのです。

後に私が二度目の北京駐在をした時には、家内が何度も一人で北京に来てくれました。

（片寄浩紀）